

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録概要

○会議の名称：第14回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

○開催の日時：平成23年2月8日（火） 午後1時半～午後3時半

○開催の場所：鳥取県庁第21会議室（第2庁舎9階）

○出席者氏名：

【委員】

区分	氏名	所属名	役職名
委員長	副井 裕	国立大学法人鳥取大学	学長補佐
委員	谷口 義晴	日本セラミック株式会社	代表取締役社長
委員	辻 智子	日本水産株式会社	生活機能科学研究所長
委員	中村 宗和	国立大学法人鳥取大学	理事・名誉教授
委員	和木 幸雄	三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社	監査役

【地方独立行政法人鳥取県産業技術センター】

氏名	役職名
山本 誠	企画管理部長
山田 強	企画管理部企画室長
濱本 修	企画管理部総務室長補佐
石破 徹	企画管理部企画室長補佐
加藤 明	企画管理部企画室企画員
梅林 志浩	〃

【事務局（鳥取県）】

氏名	役職名
山根 淳史	商工労働部長
広瀬 龍一	商工労働部産業振興総室産学金官連携室長
小谷 博之	商工労働部産業振興総室産学金官連携室研究開発担当副主幹

○次第

- 1 開会 山根商工労働部長あいさつ
- 2 審議 (1) 次期中期計画について (2) その他
- 3 閉会

○主な意見

【審議事項1】次期中期計画について

（事務局説明）

- 今般提出されたセンターの中期計画案に対して、本日の会議で各委員からいただく意見を反映したのち、正式な中期計画を県に申請（規則上、センターは30日前（3月1日）までに申請）し、知事が認可する予定である。
- 中期計画案の主なポイントについて
 - ・県が策定した経済成長戦略等を反映する形で戦略分野を盛り込んでいること
 - ・技術支援と研究開発業務のバランスという観点を中期計画にも盛り込んでいること
 - ・技術支援・依頼試験などのサービスの質の向上について
 - 「研究開発の集中的な実施と技術支援等への経営資源の投入のバランスを考慮」
 - 技術相談・現地支援について、「中期計画期間に2万6,000件」
 - 「技術支援内容のデータベース化」について追記
 - ③企業ニーズの調査に、「質的視点を含めた」という文言を盛り込む
 - 機器設備の開放について、機器利用の時間の「合計5万2,000時間（又は件数記載）」
 - 「保有機器の高度化」企業ニーズや社会ニーズに対応した高度化を図るため、今回は頭出し
 - 重点的に実施するテーマやある程度の研究期間を設けた挑戦的なテーマなど、絶えず見直しなが

- ら取り組む、との中期目標の内容を中期計画にも反映
- 研究成果の普及、技術移転に係る目標数値… 特許出願件数（10件）、技術移転（11件）、成果普・技術情報の提供（22回）
 - 中期目標の内容を反映して、「広報活動の充実」を頭出し。プレスリリースの目標数値77件。
 - 「ものづくり人材の育成」目標数値は省略。4年の間に状況の変化があるため。
 - 「産学金官連携の推進」中期目標の内容を反映して、中期計画の記載についても内容を充実。
- ・業務運営の改善・効率化について
 - 施設間のセンターのミッションに係る認識共有化について記載したこと。
 - 企業訪問調査数の目標数値2,000社
 - 外部資金等の確保に係る記載内容を充実（実施許諾料の収入確保、外部委託等の経費抑制等）
 - 競争的資金の獲得件数の目標数値を9件
 - 食品開発研究所の重油漏出事故を受け、「設備の抜本的な整備計画の検討に着手」を記載
 - ・数値目標の設定について
 - 技術相談、企業訪問、機器利用については、第1期と同じ。
 - 技術移転、講習会、特許出願、資料提供、外部資金については、これまでの実績を踏まえ、第1期の1割アップの形で設定。人材育成については数値を設定しない。

(意見交換)

委員	委員発言	意見に対する回答、対応
辻委員・和木委員	技術支援と研究開発のバランスの具体的なイメージは？どちらに重点を置くのか。	(産業技術センター) 何割何割とは申し上げられないが、気持ちとしては、より研究の方に力を入れたい。また、第1期は、研究員も相当数値を意識してやってきたが、第2期は質を重点にやっていきたい。
和木委員	・年度計画はいつ出るのでですか。1年目の年度計画が出れば、2年目以降がイメージしやすい。本当にこの中期計画で正しいですかと言われたときに、非常に意見しづらいと。 ・この目標も計画も、抽象的過ぎてわかりづらい。具体的にどう評価すればよいか難しい。	(広瀬室長) 年度が始まる前、3月31日までには出てくることになっています。
中村委員	中期目標と中期計画は何が違うのか。 前回でもあった議論ですが、私は盛んに「大分類、中分類、小分類というヒエラルキーを意識して」と言っていますが、今回それが6段階になってしまった。これは県民の目に触れるのですね。議会にも出すのですか。	(広瀬室長) 議案ではないが、ホームページに掲載し、オープンになります。
中村委員	つまりヒエラルキーが、ローマ数字Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ。アラビア数字1、2、3。両括弧(1)(2)(3)。①②③が4段階目。5段階目、ア、イ、ウもしくはa、b、c。6段階目、(ア)(イ)(ウ)。これでは詳細過ぎて逆に意味不明になる部分もあると思います。もっとシンプルにつくれないものか。 また、中期目標と中期計画がそっくりなところが多い。目標とは英語ではターゲット、標(しるべ)であり、計画とはそこにどういうふうにして行くのかという戦略書なのです。戦略書には4W1Hが必要ですが、ハウツーが書いてない。他府県の計画書	(辻委員) ・細かいのはよいが、具体性が大事だと思います。技術支援と研究開発をどんなバランスにするかが書いてない。研究の方に力を入れたいなら、その研究に力を入れる方法を具体的に示すべき。研究テーマの項目ごとに何チーム、何人という研究体制や資金の配分が記載されるべきだが、全部がアウトラインのようになってしまっている。 ・研究に力を入れるのであれば、チームをつくって研究をしないと、特許や実用化などの

	<p>も同じ。計画をつくるときは意識してハウツーを書くようにしないと、目標を細かく書いているだけの項目もある。年度計画に書くことが全部この中期計画に書いてあるのではないかというのが私の意見。</p>	<p>研究成果が出ないということになる。 目標を達成するための手段が具体的に示されていないと、この目標と計画の内容でいいですとは言いつらい。</p>
副井 委員長	<p>非常に細か過ぎるのではないかという意見と、具体性に欠けるのではないかという2点の御意見が出ていますが、何かコメントがありますか。</p>	<p>(谷口委員) 鳥取のマイクロ水力発電について。日本に1社しかないような錯覚を起こすような内容なので、発表前に助言すべきだったと思う。 もう1件、技術相談の数値目標が4年間で2万6千件だが、今期の実績が3万6,667件なので、何も努力しなくてもクリアしてしまう。次期も同じ目標にするなら、クオリティの違いを明らかにしたほうがよい。</p>
中村委員	<p>実績が4年間で3万6千件なので、(来期は)あまり相談に来ないという見込みかもしれない。</p>	<p>(和木委員) ・次の目標値を実績よりも減らすなら、減らす理由、別の部分に力を注ぐ等の説明が必要。 ・先程のマイクロ水力発電の件は、次年度に向けての考えを具体的に示していただければ理解できますが、それがなければ評価できない。 ・例えば「データベース化に取り組む」「高度化」などの表現が具体性に欠けており、どういう意味合いかわからない。例えばデータベース化は、どんなメリットがあり、具体的にどういうことができるようになるのか。</p>
副井 委員長	<p>4点意見が出ました。 ①項目が6段階で、非常に細か過ぎるのではないか。 ②具体性がない ③ハウツーに欠けている ④数値目標がこのままでいいのか。このままだともう少し説明が要るのではないか。</p>	
中村委員	<p>去年作成した評価表にもヒエラルキーが3段階あり、評価項目が37種類ありました。 項目毎に評価して重み付けして積算し、それで最後に合計するシステムをとると、(ア)や(イ)などの項目ごとに評価するイメージがわかりません。</p>	<p>(広瀬室長) 評価項目やウエイト付けは、中期計画や年度計画に基づいて、来年度検討します。 ハウツーや具体性に欠ける点については、4年のスパンである程度枠を定めて、年度毎に計画として落とし込んでいく方法もあると考えます。その中で、全項目を点数化の対象にするかどうか議論いただきたいと思います。 中期目標ですが、確かに実績よりは目標数値が低くなっていますが、目標数値と評価のあり方として、常に標準がどんどん上がっていくやり方がいいのか、その兼ね合いを判断させていただいた結果。当然継続して努力はするが、これを実績に合わせるかどうかは、もう少し評価も絡めて考える必要があるのではないかと考える。</p>

<p>谷口委員</p>	<p>企業の場合、安易な目標値を設定して、それをよしとしたら、競争社会では絶対生きていけないと思います。ベースになる数値は、上がって当然だと思います。機械の利用時間が半分以下になるような目標をつくって、なぜ予算が要るのですか。むしろ賃貸料で収入があるのではないですか。</p>	<p>(産業技術センター) 1期の数値目標は決して低いものではなく、企業訪問2千件は、2年に1回は全企業を回るなど小さい鳥取県だからできること。これ以上上げても余り意味がないのではないかと。来年度の運営費は効率化係数が引き続き適用され、評価3であればマイナス1%となる。厳しい状況ではあるが、研究は企業支援等のベースになる大変重要なものであり、力を割いていきたい。 具体性等については、確かに前回の計画に少し引きずられたような書き方になったところもあるが、年度計画の方に具体的な計画を回すなど、ある程度は工夫した。 (広瀬室長) 県からの運営費交付金のうち、業務費は毎年1%ずつ削るといふ県のルールで運営しており、第2期も基本的にその前提。大体3,400万円が固定的に減らされていく。また、それとは別にインセンティブで、評価委員会の評価に基づいて、±1%の範囲で増減されます。この結果、第1期は4年間で約1千万減っています。</p>
<p>辻委員</p>	<p>それならなおさら、自己収入が1千万、5百万アップするような計画を立て、実行するためのアクションプランをつくるべき。 減らされる分、独立行政法人で独立的にやっていくために自立しなさいという目的です。その方法として、技術支援、機器貸出しなどで得られる収入の計画、最低限のラインを決めてはどうか。</p>	<p>(広瀬室長) それができるといいのかもしれませんが、法的には特定独立行政法人であり、非効率でもやるべき部分をより柔軟に効率的にやっというところまで考えているものではない。</p>
<p>辻委員</p>	<p>この相談件数の目標に正解値はないと思うが、逆に顧客満足という意味では、全体のニーズに対して、その何十%を満したか、相談を通じての不満やネガティブな意見を吸い上げる方向にして、評価するというのがいいのではないのでしょうか。</p>	<p>その中身には重大なものと軽いものがあると思うので、実際に数値目標を特につくることは意味がないかなと思ったのです。</p>
<p>和木委員</p>	<p>窓口アンケートは記名ですか、無記名ですか。 また、企業ニーズのアンケートはどうか。</p>	<p>いずれも記名です。</p>
<p>和木委員</p>	<p>逆に無記名にして、誰かわからないようにアンケートしたら、もっと正しい意見がとれるのかなとも思いますが。</p>	<p>(中村委員) 2万6千件は東京都並みで、岩手県の何倍もあります。数え方が鳥取県独自のものです。同じ技術案件でも、きのうとあしたで2件に数えるかどうか。4年前にこの数え方を整理しようとしたが、結局できませんでした。</p>
<p>谷口委員</p>	<p>例えば、質問のフォーマットをホームページなどに入れて、Q&Aで返す形にしておけば、確実な1件です。</p>	<p>(中村委員) それがデータベース化なのです。そうすれば3万6千も360に減るのでは？鳥取県の産業サイズで新しい研究や技術テーマが積み重なって3万6千件だから、同じ内容が相当あるのではないかと。極端なことを言えば、人がいなくてもコンピューターが返事できるかもしれない。</p>

<p>谷口委員</p>	<p>高いターゲットを上げておくべきではないかと思 います。 実力の70%位の目標を設定して、それが県下の企 業に対するサービスの向上を図ろうとしている目標 なのかと問われると、弁解できないと思 います。</p>	<p>(山根商工労働部長) この技術相談、企業訪問、機器利用の2万6 千件は同じ基準である必要はないのでは。単 純に件数だけ上げると、対県民に説明不能に なってくると思いますので、県の立場として、 この辺りは再検討だと思います。 また、特許件数、外部資金の1割増の根拠 については、難しい部分もあるので、少し再 検討する必要があると思います。 ハウツーについては、盛り込めるものはで きる限り盛り込みたいが、逆に、基本的なあり 方にとどめざるを得ないものがあると思 いますので、その辺の整合も考えたい。</p>
<p>辻委員</p>	<p>産業技術センターのコアな研究の具体的な取組内容 については、評価委員が突っ込んで見る機会がほと んどない。研究の質の問題や他との競争力の問題な どを我々は評価をしていないので、その部分も含 めて、来期は評価をした方がいいのではないかと。具 体的研究テーマの設定と廃止・継続の判断のしかた などについても、評価に含められないかと思 います。</p>	<p>(中村委員) 発電機の研究であれば、広島などに日本の最 高レベルの10kWクラスのメーカーがあり ます。それをブレークスルーするなら逆に成果 ですが、単なるまねごとなのでは？ メリ張りを付けて、節約や予算の重点化を図 る方が大事。どういう研究テーマを立てるか で決まってきます。</p>
<p>辻委員</p>	<p>すべてはテーマ設定にあると思いますが、我々が評 価する場面はなく、テーマ設定の全責任は理事長に あります。理事長業務の最も重要な部分を評価しな いで、それ以外の部分を評価した結果、人件費が変 動するのであれば改めるべきではないか。</p>	<p>(広瀬室長) どこまで解消できるかわからないが、評価方 法の検討については、あらためてお示しした い。 また、民間の視点からみて、予算に対する認 識が甘いのではないかと、評価委員会でも産業 技術センターの事業報告や成果、予算の用途 なども示されていないという御指摘ですが、 一方で、公務員型の産業技術センターの使命 として、不採算でもやらなければいけないと いう窮状もあります。</p>
<p>中村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発はセンターのミッションの大きな部分で すが、その部分の評価がブラックボックス化してい るわけです。だから、いつの間にマイクロ水力にそ んな熱を上げるようになったかというのが後から出 てくる。 ・中期計画には人員や予算の計画はなくてよかった のですか。具体的な方法、全国公募をやるのかどう か、ぜひ中期計画に書いてほしい。私は優秀な人員 の採用がこの4年間滞っていると思っています。 	<p>(産業技術センター) 当然計画に入ってまいります。 (広瀬室長) 公募などの記載はあったと思いますし、研究 に専ら従事できるような環境を整えるため、 技術スタッフ、機器専用の職員を配置する観 点で、51名の枠内で予算を配分するという考 え方だと思います。</p>
<p>和木委員</p>	<p>企業を回ることによって、人の登用、どういうスキ ルやカテゴリーの人が要るのか見えてきますので、 所長及び企画管理部の方が企業訪問して、しっか りと直接現場を見ていただくことが必要。 アンケートなどを見て、現場の意見が違う面もある と思いましたが、自分の専門分野だけでなく、す べてのカテゴリーの現場に満遍なく責任者が出て いただきたい。</p>	<p>(辻委員) 相談や共同研究の依頼などコンタクトがあ った企業と、研究報告会やその後の懇親会な どがあれば、より円滑にいくかなと感じます。</p>

<p>副井 委員長</p>	<p>大分意見も出していただいたので、全部が今すぐ解決というわけではないと思いますが、事務局で検討して、よりよい案をつくっていただくというところでいかがでしょうか。</p>	<p>本日以下のおりご意見をいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体性、ハウツーがもう少しわかるようまとめること。 ・年度計画とその先の評価を合わせた上で、項目が細か過ぎるので、バランスを考えること。 ・具体的な数値目標と実績との乖離が大きいものは調整すること。 ・評価項目については、中期計画の項目に沿ってまとめること。 <p>今後のスケジュールですが、今月中にセンターから認可申請があり、今年度中に県が認可の申請をします。事業計画は、センターの届出になります。</p> <p>来年度は、22年度のセンターの実績評価と第1期中期計画期間の業務評価が必要。6月末迄に出される22年度の業績評価と第1期中期期間の業績報告を受けて、7、8月に評価委員会を開催し、9月に予定される議会で報告します。</p> <p>5月の評価委員会は、新たな委員へのセンターの概要、業務の説明等、あるいはセンターの施設の見学等を考えています。</p> <p>なお、現在の中期計画に基づく年度計画に対する評価は、今の評価方法等で行っていただく。第2期中期計画、年度計画、評価方法については新しい評価委員会で検討していただく。その際、前の基準の評価方法で評価しながら、新たに評価方法を検討するのは混乱しますので、いったん前期の評価作業が終わった後に改めて議論いただき、決定させていただきたい。</p>
<p>副井 委員長</p>	<p>ではよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）</p>	<p>（山根商工労働部長） いただきました御意見を尊重して、見直ししたいと思います。 本日は本当にありがとうございました。</p>